

「呼吸するたび私たちは（死者の息を吸いこんで）」

アミ やがて私も死んで荼毘にふされるわけだ

ユイ いつか燃えるんだこの身体。親に抱きあげられたことも。熱にうなされて寝こんだことも。幾人かと夜を重ねたことも。満天の星空を見あげたことも。ぜんぶ燃えあがる炎と一緒に

アミ 誰かみていてくれるかな

ユイ 幸せなことばかりじゃなかった。でもぜんぶこの身体がみてきた

アミ 私は覚えてるよ、お祖父ちゃん骨になって。おっきい骨はさ、割るんだよね箸で。集まったひとが骨壺にひと欠片ずつ入れていって。残りは小箒でまとめて、ざーって。微かに灰が舞いあがって

日本劇作家協会 会報「ト書き」61号（2018年12月31日発行）に寄稿。
「におい」をお題に、200文字程度で台詞を書くという依頼だった。

酒井一途

1992年東京生まれ。ミームの心臓主宰・脚本・演出・プロデュース。2017年より1年間ベルリンに遊学。劇場と美術館に通いつめ、スペイン・サンティアゴの巡礼路を歩いた。

[酒井一途公式サイト] <http://ittosakai.net/>

[Twitter] @itto_sakai